

# 観光誘客 学生の視点を

## 袋井市、静岡理工科大で講座

袋井市の静岡理工科大で、学生と市職員らが地域の課題解決に向けて意見を交わす市の講座「地域学」が始まった。二十二日までの計四回で、袋井に観光客を呼び込む方策などを研究、提案する。

(土屋祐二)



観光客を呼び込む方策などについて意見を交わす学生ら—袋井市の静岡理工科大で

市と大学が結ぶ包括連携協定による取り組みの一環で、学生二十九人、市の若手職員六人らが参加。初日の七日は冒頭、原田英之市長が「『袋井×未来』 みんなで未来の『タネ』を育てる」との演題で講話した。

原田市長は、二〇一九年のラグビーワールドカップ(W杯)を見据えた「まちの国際化」や、袋井消防庁舎・市防災センター整備事業など市が推進する重点施策について説明。さらなる観光振興に向け「若い皆さんの斬新なアイデアを期待しています」と呼び掛けた。

市産業政策課職員が市の観光の現状などを説明した後、参加者は六班に分かれ、具体策を練った。市職員がファシリテーター(進行役)を務める中、学生からは「地域の歴史資源や特産品に新しい付加価値を」「効果的、効率的な情報発信が必要」といった意見が出た。

今後は二十日にJA遠州中央茶ピアや可睡斎を視察。二十一日にグループワークを行い、最終日の二十二日に各班が学生目線での提案発表をする。